

## 環境に関する市民意識調査の結果がまとまりました

横浜市では、市民の環境に関する意識や環境行動の実践状況等を把握する「環境に関する市民意識調査」を実施しています。この度、令和2年度の調査結果がまとまりましたので、お知らせします。調査結果は、環境分野の取組の進捗状況把握や、今後の政策立案の基礎資料として活用します。

### 調査結果の要点

- 環境や環境の取組に関心がある人は 87.0% (問1)
  - ・ 関心がある項目の上位は、昨年度・一昨年度と同様、「地球温暖化対策」、「ごみの減量・リサイクル」、「食の安全・食育」の3項目 (問1-A)
- 「気候変動等による気象の変化が激しくなっている」と感じる人は 92.8% (問5)
- 使い捨てプラスチックの削減につながる環境行動の実践率
  - ・ レジ袋の辞退率は 84.3% (問12)
  - ・ 「マイバッグ、マイボトル、簡易包装などでごみを減らす」は 85.0% (前年度比 11.5 ポイント増)(問2)
  - ・ 「使い捨てのプラスチック製品をできるだけ使わない」は 66.3% (前年度比 14.1 ポイント増)(問2)
- 「脱炭素化」という言葉の認知度は 52.6%、「生物多様性」という言葉の認知度は 68.3% (問6、問8)

### 調査の概要

- ・ 期間：令和2年8月24日～9月10日
- ・ 対象：16歳以上の市民3,000人（外国籍市民を含む）
- ・ 方法：郵送による無記名調査（全19問）
- ・ 回答：1,616人（回収率53.9%）

調査結果（抜粋）は、別添資料の通りです。

クロス集計、経年比較を含む調査報告書は、以下のウェブページで公開しています。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/shiminchousa.html>

お問合せ先

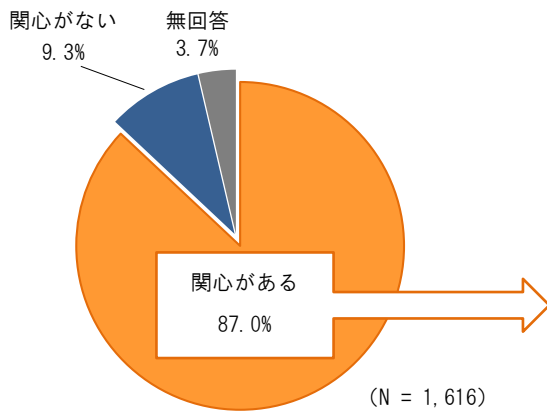
環境創造局政策課長 越智 洋之 Tel 045-671-2686

# 令和2年度 環境に関する市民意識調査の結果（抜粋）

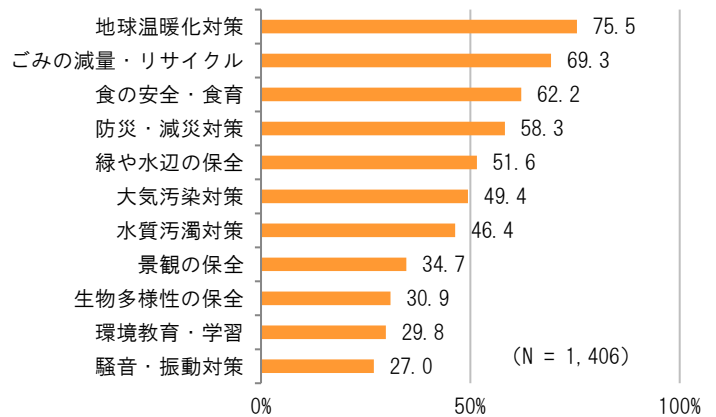
## 1 環境や環境の取組への関心について（報告書 10 ページ）

- ・ 環境や環境の取組に「関心がある」人は 87.0%で、60代が 95.0%で最多
- ・ 関心がある項目の上位は、昨年度・一昨年度と同様、「地球温暖化対策」、「ごみの減量・リサイクル」、「食の安全・食育」の3項目

問1 環境や環境の取組に関心がありますか  
(○は一つ)



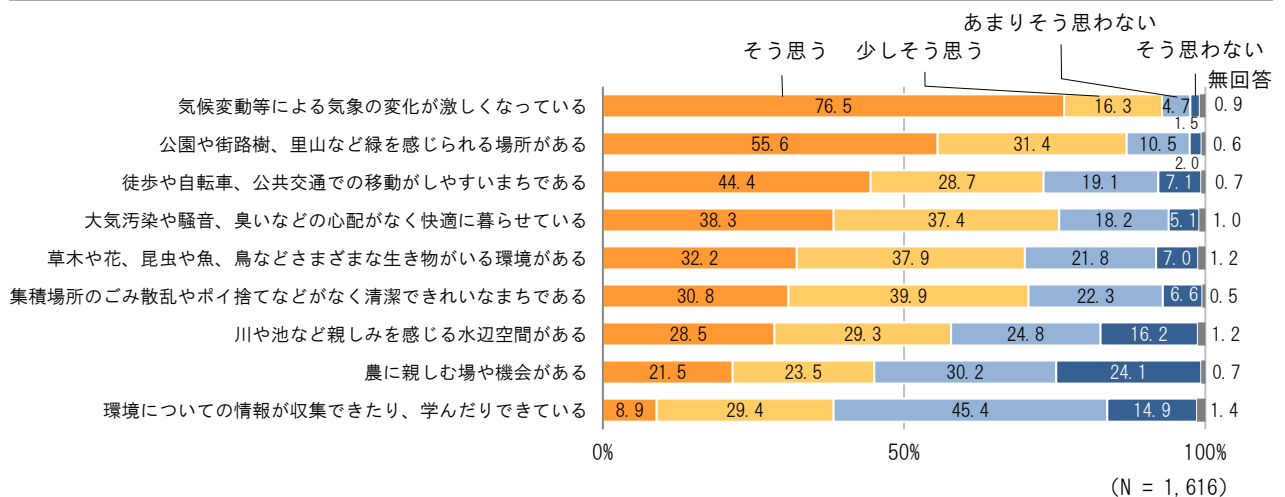
問1-A 関心がある項目を教えてください  
(○はいくつでも)【問1で「関心がある」と答えた人のみ】



## 2 身のまわりの環境について（報告書 29 ページ）

- ・ 「気候変動等による気象の変化が激しくなっている」と感じている人は、92.8%\*で最多
  - ・ 大都市でありながら、「公園や街路樹、里山など緑を感じられる場所がある(87.0%)」や「草木や花、昆虫や魚、鳥などさまざまな生き物がいる環境がある(70.1%)」と感じている人は7割\*を超える
- \* 「そう思う」・「少しそう思う」人の割合の合計

問5 次にあげる身のまわりの環境についてどのように感じていますか（それぞれに○は一つ）

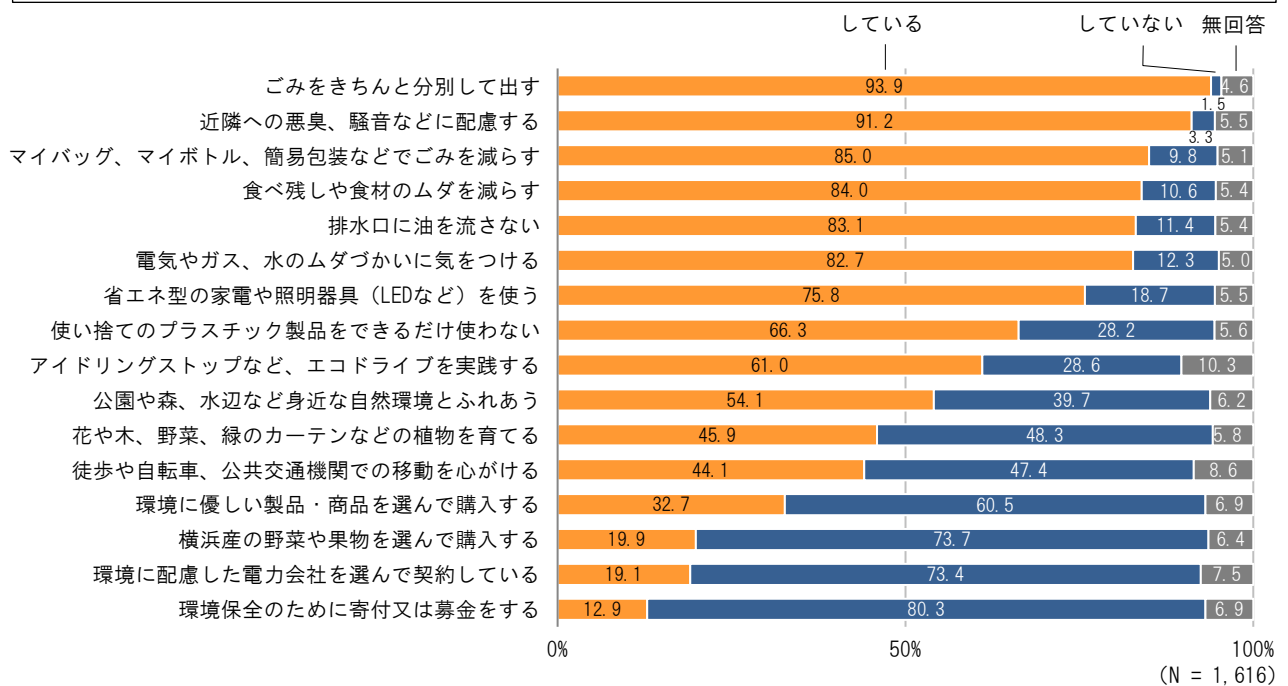


### 3 環境にやさしい行動（=環境行動）の実践状況について

#### ➤ 環境行動の実践（報告書 14 ページ）

- ・選択肢にあげた環境行動のうち、「ごみをきちんと分別して出す（93.9%）」や「近隣への悪臭、騒音などに配慮する（91.2%）」といった日常的に取り組める環境行動は、昨年度・一昨年度に引き続き9割以上の人実践
- ・「マイバック、マイボトル、簡易包装などでごみを減らす（85.0%）」や「使い捨てのプラスチック製品をできるだけ使わない（66.3%）」の実践状況は、昨年度と比較して10ポイント以上増加しており、プラスチック問題への関心の高まりが背景にあるものと推察される
- ・「徒歩や自転車、公共交通機関での移動を心がける（44.1%）」の実践状況は、昨年度と比較して約6ポイント減少しており、新型コロナウイルス感染症拡大による影響があるものと推察される

問2 普段、次あげる個人でできる環境行動をしていますか（それぞれに○は一つ）



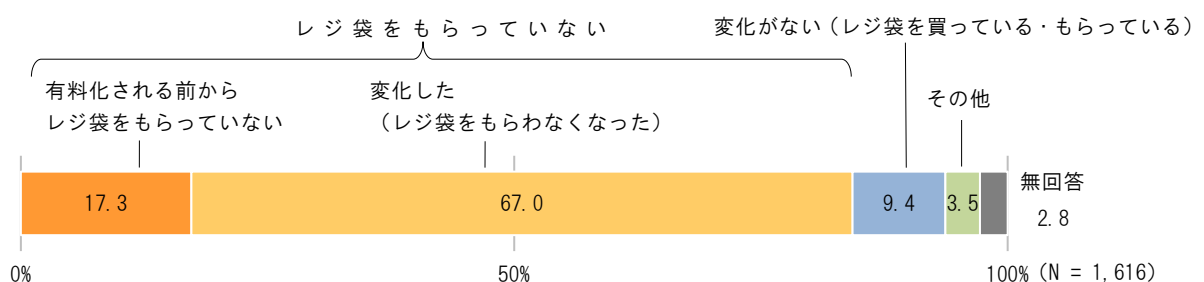
※「アイドリングストップなど、エコドライブを実践する」は「運転しない」を除外している (N=978)

「徒歩や自転車、公共交通機関での移動を心がける」は「車を持っていない (N=459)」を除外している (N=1,157)

#### ➤ レジ袋の有料化を受けて（報告書 53 ページ）

- ・レジ袋の有料化により行動が「変化した（レジ袋をもらわなくなった）」人は67.0%で、「有料化される前からレジ袋をもらっていない（17.3%）」人と合わせて「レジ袋をもらっていない」人は84.3%

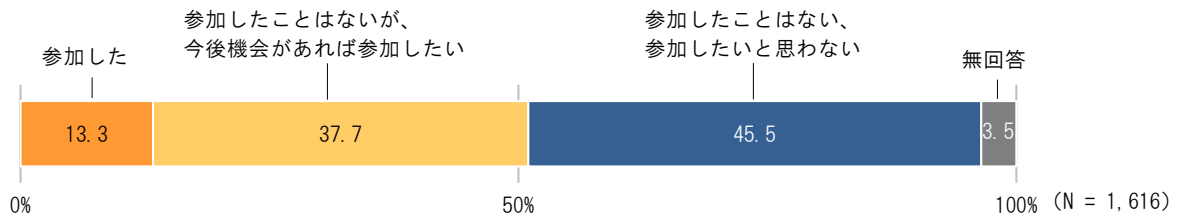
問12 プラスチック製の買物袋（レジ袋）の有料化を受けて、食品や日用品などの日常的な買い物で行動に変化はありましたか（○は一つ）



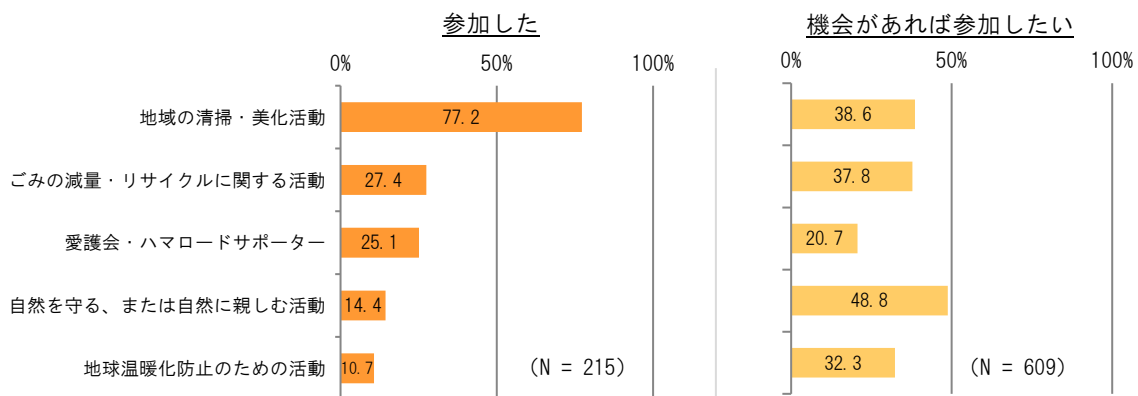
#### 4 地域の環境活動や環境活動団体への参加について (報告書 22 ページ)

- ・1年以内に地域の環境活動に「参加した」人は13.3%で、70代が20.1%で最多
- ・「参加したことはないが、今後機会があれば参加したい」人は37.7%で、60代が45.9%で最多
- ・参加したことがある活動は、身近で気軽に参加できる「地域の清掃・美化活動(77.2%)」が最多

問3 ここ1年間に地域の環境活動や環境活動団体に参加したことがありますか (〇は一つ)



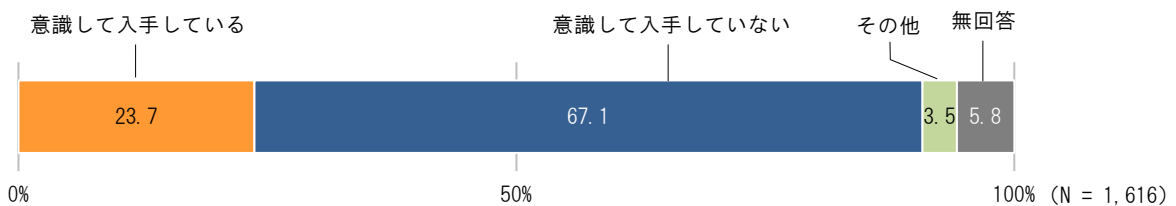
問3-A 参加したことがある活動や、参加してみたい活動はどれですか。(〇はいくつでも)  
【問3で「参加した」「参加したことはないが、今後機会があれば参加したい」と答えた方のみ】



#### 5 環境に関する情報の入手について (報告書 28 ページ)

- ・環境や環境の取組への関心は87.0%と高い一方(問1参照)、環境に関する情報を「意識して入手している」人は23.7%に留まる

問4 環境に関する情報を意識して入手していますか (〇は一つ)



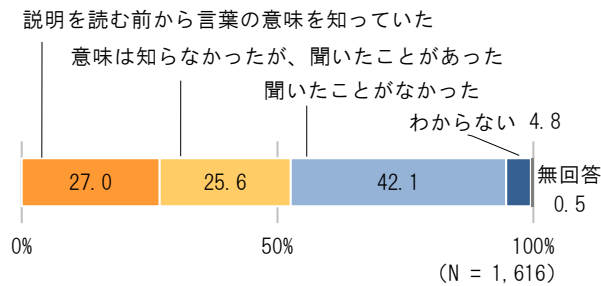
## 6 市の環境の取組について

### ➤ 脱炭素社会の実現に向けて（報告書 40 ページ、42 ページ）

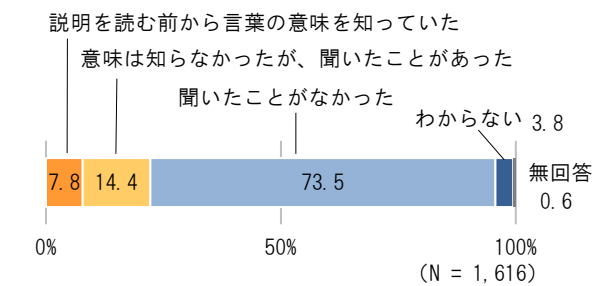
- ・「脱炭素化」という言葉の認知度は 52.6%※で、年代が上がるほど高くなる傾向
- ・横浜市が「Zero Carbon Yokohama（ゼロ カーボン ヨコハマ）」を掲げて温暖化対策を推進していることの認知度は 22.2%※で、年代が上がるほど高くなる傾向

※「説明を読む前から言葉の意味を知っていた」・「意味は知らなかったが、聞いたことがあった」人の割合の合計

問6 「脱炭素化」という言葉の意味を知っていましたか（○は一つ）



問7 横浜市が「Zero Carbon Yokohama（ゼロ カーボン ヨコハマ）」を掲げて温暖化対策を推進していることを知っていましたか（○は一つ）

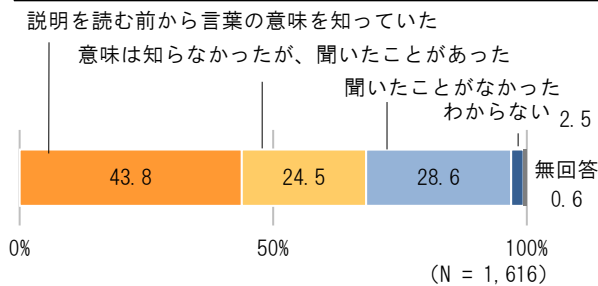


### ➤ 生物多様性・身近な自然に求めるもの（報告書 45 ページ、49 ページ）

- ・「生物多様性」という言葉の認知度は 68.3%※で、言葉の意味を知っていた人の割合は、10代・20代で高い
- ・「身近な自然が持つ力やその恵みのうち、暮らしやまちづくりに求めるもの」は、「気温の上昇を抑える・木陰を作る（75.7%）」が最多で、猛暑を受けての実感が反映されているものと推察される

※「説明を読む前から言葉の意味を知っていた」・「意味は知らなかったが、聞いたことがあった」人の割合の合計

問8 「生物多様性」という言葉の意味を知っていましたか（○は一つ）



問9 身近な自然が持つ力やその恵みのうち、暮らしやまちづくりに求めるものはどれですか（○はいくつでも）

